

一般社団法人日本助産学会
日本助産学会誌 査読ガイドライン

一般社団法人 日本助産学会編集委員会

この査読ガイドラインは、日本助産学会が任命する専任査読委員（以下 査読委員とする）および編集委員が共通理解のもとに査読を進めるためのものです。

1. 本誌の査読とは

本学会の査読は、助産学の学術的発展および助産実践の発展のために、学会趣旨を同じくする研究者および実践者同士が相互の研鑽を目的に行うものです。投稿論文が本誌の趣旨である助産学の発展に寄与し、これらの優れた取り組みを社会に公表するに値するかを判定していただきます。

2. 査読基本方針

- 1) 本学会誌は、学術活動の発表の場として位置づけられています。論文の種類に鑑み、新規性、創造性、重要性、臨床への寄与、発展性の観点で論文の意義を評価します。
- 2) 投稿論文が本誌の趣旨に沿っているか査読します。査読は論文の趣旨や内容を尊重し、できるだけ客観的・建設的な視点で査読を行ってください。
- 3) 投稿者へのコメントは、論理的でない非難となるような表現、曖昧な表現は避けてください。
論理的でない非難となるような表現とは「既にわかっていること」「この研究をする価値はどこにあるのでしょうか」などです。
曖昧な表現とは「～わかりにくい」「もう少し良い表現はないでしょうか」などを指します。
- 4) 査読コメントは、原則そのまま著者に返します。表現に留意するとともに、査読委員が特定されるような記述は避けて下さい。
- 5) 査読は、原則 2 回までとします。第 1 回目の査読で問題をすべて指摘し、第 2 回目以降には新たな問題は指摘しないようにしてください。2 回目の査読は、1 回目の指摘事項が修

正、検討されているかを中心にご確認ください。

- 6) 査読にあたっては、投稿者が希望する「原稿の種類」となり得るかを念頭にコメントしてください。もし、「原稿の種類」に変更が必要な場合は、どの点に変更に値するのかなど具体的に記述ください。また、不採用と判断される論文においても、どのような改善が必要なのかを丁寧に記述ください。
- 7) 「査読結果」や「原稿の種類」は査読委員が選択したものを参考に編集委員会が最終検討しますが、必ずしも査読委員と同じ判定になるとは限らないことをご了承ください。
- 8) 著者へのコメント欄に「採用」「不採用」など断定的な表現は避けてください。
- 9) 編集委員会で「修正後再査読の結果で採否を決定」の判定の場合は、査読委員全員にもう一度査読をお願いします。
- 10) 査読の判定は、「採用」「修正後再査読の結果で採否を決定」「不採用」の3つで判断してください。

3. 査読委員の任期及び査読プロセス

- 1) 査読委員の任期は、委嘱状に記された依頼日から2年間となります。
- 2) 編集委員長名で査読依頼がありましたら、抄録を確認し、「受託」「辞退」のいずれかをご回答ください。
- 3) 年1 - 2編の査読の依頼になります。できるだけ「辞退」のないようにお願いします。ただし、査読委員が公正な判断をするために自身が適任でないと判断する場合、利益相反が生じる可能性がある場合、および期限内に査読を終了することができないと判断する場合には速やかに辞退してください。
- 4) 査読を行うにあたって、投稿規定を必ずご参照ください。
- 5) 査読は、原則下記の期限厳守をお願いします。

- ① 第1回目査読期限は30日以内とする

② 第2回目査読期限も30日以内とする

6) ただし、編集委員会が必要と判断した場合は、第3回目の査読をお願いします。その際、査読期限は20日以内とします。

4. 論文選考基準

論文選考基準に沿って、判定をお願いします。できる限り詳細にコメント欄あるいは別紙でコメントをお願いします。

2022年1月21日より施行する